

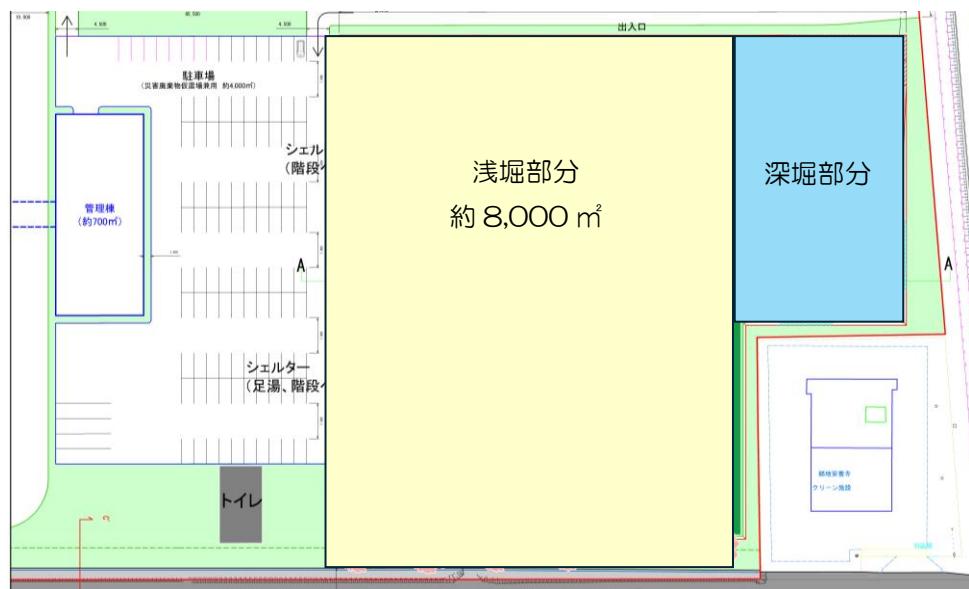
## 【調整池の多目的利用について】

### ① 基本計画での位置づけ

新たなごみ処理施設等整備基本計画では調整池について「調整池は現状を踏まえたうえで必要な貯水量を確保する。また、緑地と合わせて多目的に利用できるよう、活用方法を今後検討し、市民町民に親しまれる施設を目指す」（概要版P 9から抜粋）とされています。

### ② 調整池の規模と多目的利用部分（設計中のため未確定事項）

- ・調整池の規模は、面積約10,000m<sup>2</sup>、容量約11,000m<sup>3</sup>（基本計画の数値）
- ・調整池を費用及び利用の効率性を考慮し浅堀部分と深堀部分に高さを分け、浅堀部分を多目的利用に使用することを想定
- ・多目的利用の面積は約8,000m<sup>2</sup>（中央小校庭約7,000m<sup>2</sup>、鴻巣中校庭約10,000m<sup>2</sup>）



### ③ 多目的利用のコンセプト

多目的利用を検討するうえで、「どのような場所にするか」により設置する施設が変わるために、多目的利用のコンセプトが重要になります。

#### <コンセプト>

- 集い、憩い、安らぎがある場所
  - 賑わい、活気のある場所
  - 健康増進を促進する場所
  - 子どもやファミリー層が楽しめる場所
  - スポーツを楽しめる場所
  - 幅広い世代・多くの方が利用できる場所
  - 自然に触れ学べる場所
  - 近隣に類似の施設がない独自の場所
  - 周辺で人気の施設を集めた場所
- など、、

#### ④ 導入施設の検討

調整池に導入可能な施設として、下記のようなものがあります。この中からコンセプトを踏まえ設置したいものを検討してください。

- ・多目的広場

※多種スポーツを楽しむ場、イベントやマルシェなどを開催する場

- ・バーベキューエリア

※ファミリー層などが楽しみながら1日を過ごす場

- ・ドッグラン

※開放的な空間でペットと一緒に過ごす、愛好家の交流の場

- ・ジョギングコース、健康遊具

※健康増進を目的とした施設として配置

- ・子ども用複合遊具

※子育て世代・ファミリー層も来場しやすいように、子どもが遊べる施設を設置

- ・水辺空間、水遊びエリア

※自然に触れて学ぶことができる

- ・スポーツ施設

※パークゴルフ場、フットサルコート、テニスコート、バスケットコート、少年野球場、少年サッカー場、ラクロス場、ミニラグビー場など

- ・足湯（調整池外への設置を想定）

※健康増進や憩いの場の目玉施設としつつ周辺施設との差別化も図る

- ・休息や日陰

※シェルター、四阿（あずまや）、パーゴラ、樹木、ベンチなどの配置

◎上記施設の説明や施設の組み合わせ設置例を次ページ以降に掲載しています。

{設置例 1} 集い、憩い、安らぎ

●配置する施設（1つのエリアとして整備）

- ・多目的広場
- ・足湯
- ・シェルター

{設置例 2} 賑わい、健康増進

●配置する施設（4エリアに区分）

- ・多目的広場
- ・バーベキューエリア
- ・ドッグラン
- ・健康遊具
- ・子ども用複合遊具
- ・足湯
- ・シェルター

{設置例 3} 健康増進、スポーツ

近隣に類似がない

●配置する施設（大きく2エリアに区分）

- ・多目的広場
- ・パークゴルフ
- ・足湯
- ・シェルター

{設置例 4} スポーツが楽しめる

●配置する施設（各種コートの規模）

- ・ジョギングコース
- ・少年サッカー場
- ・フットサルコート
- ・少年野球場
- ・テニスコート
- ・バスケットコート、など

■配置施設の比較検討表（集い・憩い・賑わい・遊び・自然）

施設	多目的広場	バーベキューエリア	ドッグラン	健康遊具	子ども用複合遊具
					
必要施設及び留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>日当たりの良い場所であること。</li> <li>周囲に樹木が多いこと。</li> <li>基礎体力づくり、各種ボールゲーム、各種体操等の多目的に対応すること。</li> <li>広場は、芝生または草地を原則とする。</li> <li>フリーマーケットやマルシェ（市場）などのイベント利用も可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木を多く配置し、安らぎ憩いの場を提供する。</li> <li>かまどやテーブルなどは設置せず、自由にディキャンプやバーベキューなどを楽しめる空間。</li> <li>秋ヶ瀬公園や彩湖・道満グリーンパーク等では設備はなく自由にバーベキューが可能なエリアとしている例もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね1000m<sup>2</sup>以上、最低100m<sup>2</sup>とし、公園面積の2%が標準。</li> <li>小型犬ゾーン、一般ゾーンの2区分必要。</li> <li>入り口とエリア入り口の二重構造で、外周をメッシュフェンス、高さ1.5m以上とする。</li> <li>掲示板、トイレ、水飲み場、足洗い場を1カ所以上設置する。</li> <li>飼い主用の休憩施設としてベンチやパーゴラ、植栽の設置など。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンテナンスは日常点検及び定期点検（年に1回以上）が必要。</li> <li>高齢化社会により需要が増加している。</li> <li>子供が利用する可能性も想定する。</li> </ul>	<p>複合遊具は下記のような内容が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○揺動系（ぶらんこ、スプリング遊具）</li> <li>○上下動系（シーソー）</li> <li>○滑降系（すべり台）</li> <li>○懸垂運動系（ラダー、鉄棒）</li> <li>○はん運動系（ジャングルジム、クライムネット）</li> <li>○跳躍系（空気膜構造遊具）</li> <li>○平衡、その他運動系（プレイウォール、平均台）</li> </ul>

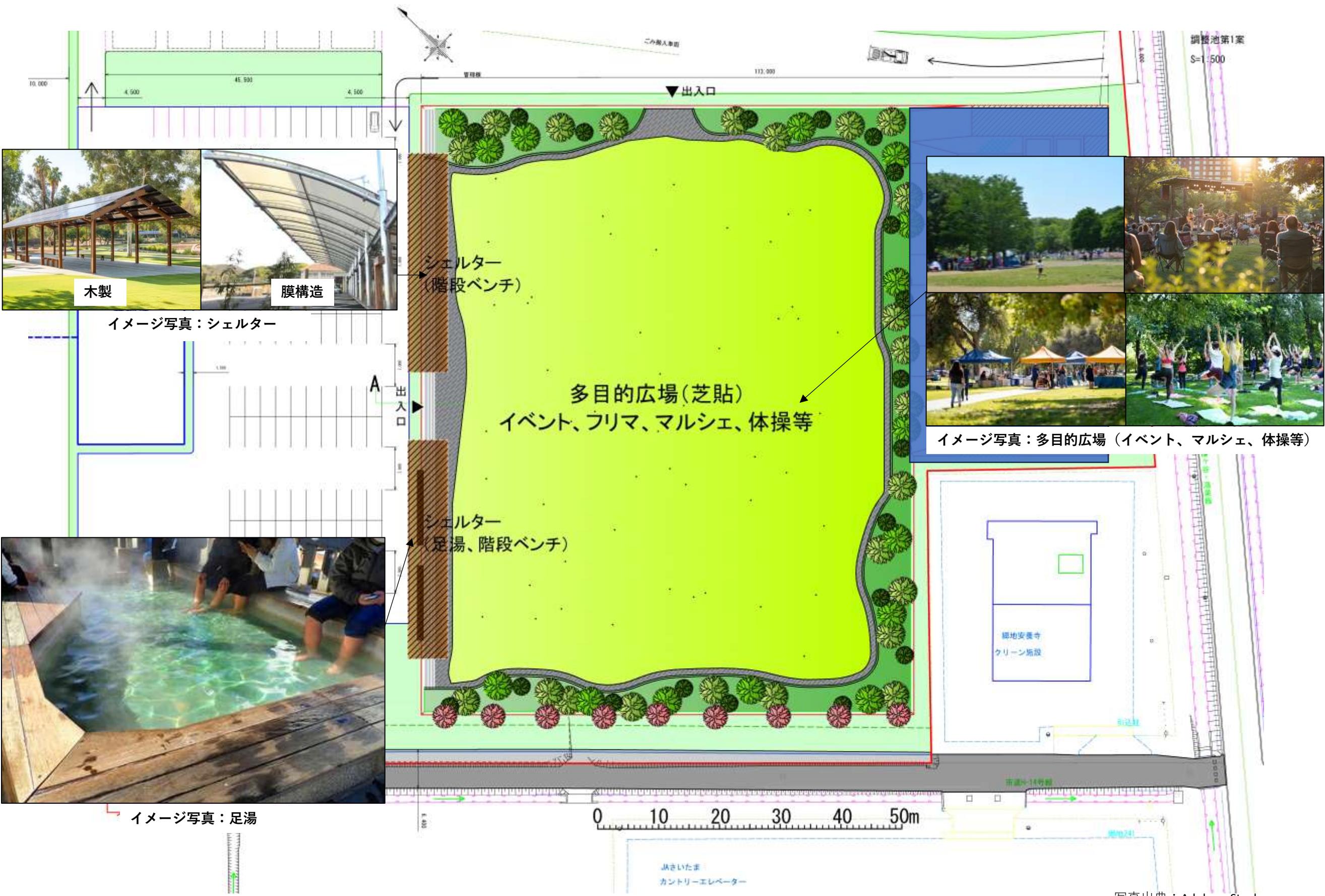
施設	水辺空間、池、ビオトープ	足湯	シェルター
			
必要施設及び留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>湿地・草地・森林・都市の街路樹・公園・草むら等の様々な空間を指す。</li> <li>在来種中心の植栽や水生生物の導入などとのふれあいや観察ができる空間。</li> <li>雨水や井戸水を利用することも考えられる。</li> <li>ザリガニ池やふな釣りなど子どもが自然体験をすることも可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な設備は、足湯槽、ろ過、殺菌システム、給水及び溢水設備。</li> <li>法規制としては、「公衆浴場法」の対象外（規模によっては対象となる）。</li> <li>メンテナンスとして、一般的には1~3か月に一度の定期的な清掃。</li> <li>調整池外への設置を想定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野外での緊急避難や休憩用に設ける簡易的な屋根と壁を備えた施設であり、四阿と異なり壁が一部又は前面についているのが特徴である。</li> </ul>

■配置施設の比較検討表（スポーツ・健康増進）

施設	ジョギングコース	パークゴルフ	フットサルコート	テニスコート	バスケットコート
					
必要施設及び留意事項	<p>基本的な計画条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コースは緑豊かな環境に配置</li> <li>コース設定は周囲の見通しを確保</li> <li>適度な陽当たりと緑陰、水辺、通風等を確保</li> <li>出来るだけ平坦にするが、多少のアップダウンにより単調さを和らげる</li> </ul> <p>設計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幅員は1人あたり概ね0.75mとする 1人走コースで追越可の場合：1.5m 2人走コースで追越可の場合：2.0~2.5m</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>18ホールで12,000m<sup>2</sup>が理想である。</li> <li>コースは9ホールを単位とする。</li> <li>1ホールの距離は最長101m以内とする。</li> <li>コース形状は比較的自由である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピッチは長方形とし、タッチライン25m~42m、ゴールライン16m~25mとする。</li> <li>方位は長軸方向が南北方向とするのが理想である。</li> <li>フィールド舗装は、クレイ系、天然芝、人工芝のいずれかとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シングルスコート (縦 23.770m × 横 8.230m)</li> <li>ダブルスコート (縦 23.770m × 横 10.970m)</li> <li>勾配は0.5%を標準とする。</li> <li>方位は一般的に太陽光線を考慮して南北方向を基準に長軸を取り、若干北西~南東に振る。</li> <li>舗装は「クレイ系舗装」と「全天候型舗装」の2種類ある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>吊下式、壁面式、移動式のバスケット装置があり、装置によって障害物までの距離、特記すべき規定、コート寸法、用途（協議用か練習用）が決定する。</li> <li>コートの大きさは、境界線の内側で測って長軸28m、短軸15mとする。ミニバスケの場合、長軸22~24m、短軸12~14mとする。</li> <li>舗装は規則により「適切な材質の床」とされており、クレイや全天候型などがある。公式大会では、木のフロアを使用する。</li> </ul>

施設	少年サッカー場	少年野球場	ラクロス	ミニラグビー場
				
必要施設及び留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>長い方のタッチラインで最小90m~最大120m、短い方のゴールラインで最小45m~90mとなっており、日本の多くのスタジアムではFIFA（国際サッカー連盟）規格の105m × 68m、7,140m<sup>2</sup>が標準となる。</li> <li>8人制少年サッカーでは、68m × 50mの3,400m<sup>2</sup>であり、コート間の余裕は5mであるが、FIFA規格の大人的コートに少年コートが2つ納まる大きさとなる。</li> <li>フィールド舗装は、クレイ系、天然芝、人工芝のいずれかとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面積は約4000m<sup>2</sup>で、ホームベース（H B）からセンター、レフト、ライトまでが60.95~68.60m必要である。</li> <li>勾配は、ピッチャープレートから各塁間へ緩やかな傾斜をつけ、外野の勾配は0.4~0.8%程度とする。</li> <li>舗装は標準的に下層、中層、表層の三層で構成し、内野と外野の使用は異なることが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>男子用フィールド（サイドライン90~100m、エンドライン48~55m）</li> <li>女子用フィールド（サイドライン110m、エンドライン60m）</li> <li>方位は一般的に太陽光線を考慮して南北方向を基準に長軸を取る。</li> <li>舗装はクレイ系舗装、天然芝、人工芝などが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タグラグビー：長軸24m、短軸14m</li> <li>U-7~8ミニラグビー：長軸46m、短軸28m</li> <li>U-9~10ミニラグビー及びU-11~12ミニラグビー 長軸70m、短軸35~40m</li> <li>舗装は基本的に天然芝が良いが、近年では天然芝に近いロングパイル人工芝が普及している。。</li> </ul>

## 設置例1. 多目的広場・足湯・シェルター



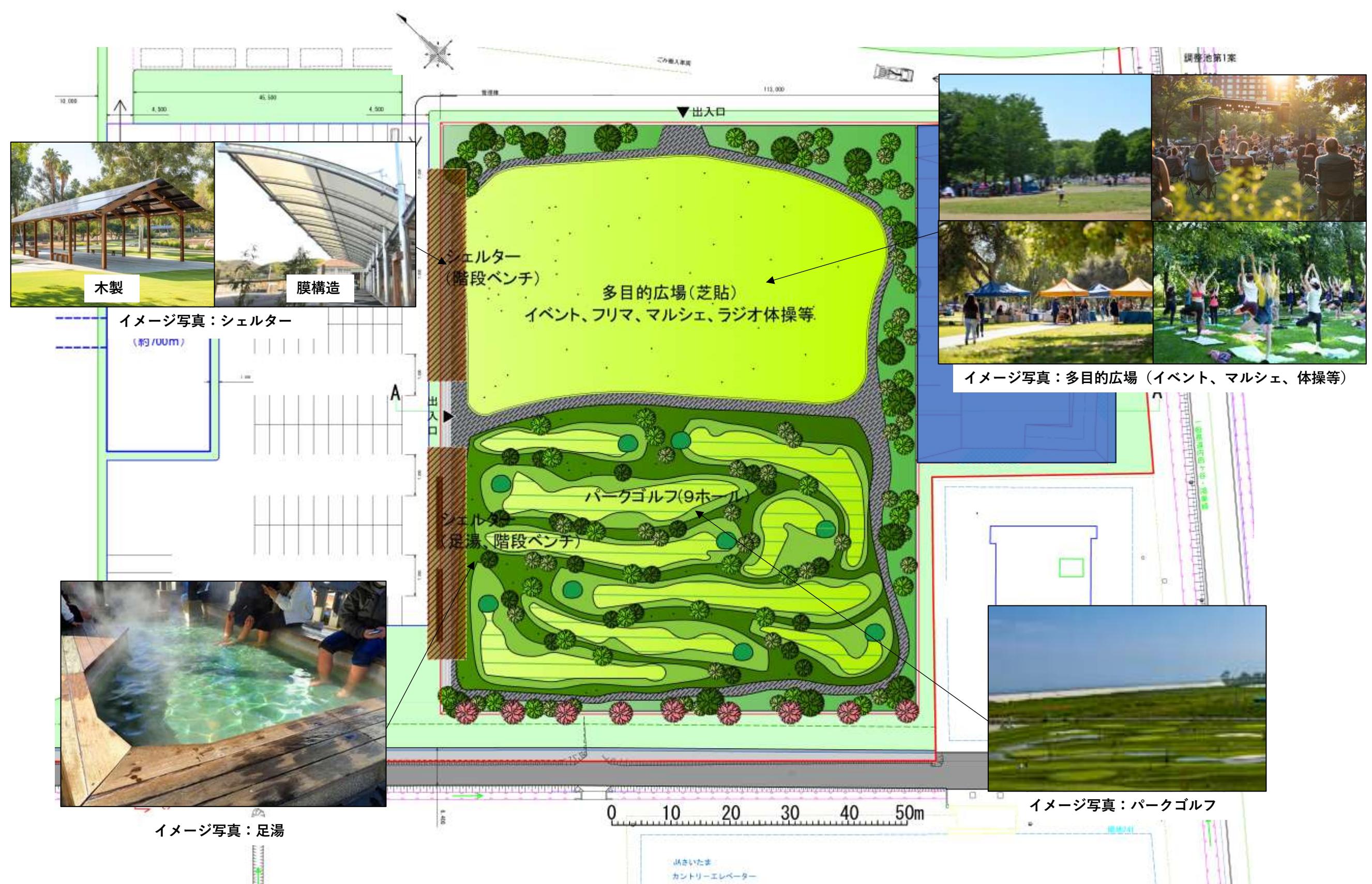
## 設置例2. 多目的広場・バーベキューエリア・ドッグラン・遊具・健康器具・足湯・シェルター



イメージ写真：バーベキューエリア

写真出典：Adobe Stock

設置例3. 多目的広場・パークゴルフ・足湯・シェルター



#### 設置例4. 各種スポーツコート（施設規模）

